

話じやれ^わ (6)

平成29年6月

4つの話

岐久 ようこ

らつきようとタコ

イイダコは可愛い
十二センチほどかな
釣り上げるのにエサは
白いものに好んで食らいつく
そこで

エサ針にぶすつと

刺しやすいもの……らつきよう

大きさも手頃

ところがです 甘酸っぱい

酔とさとうで味付けしたのではダメ

タコは「これは？」

タコ足の八感とでもいうのでしょうか

自分が食べられるのに勘づく

「酔味噌かなにか

味付けされて酒の肴にされる！」

タコだけにコタエをだすのが早い

頭を触ると脳ミンがたつぷり
人の脳ミンは働きすぎると
「ほんとにこの頃
ストレスがたまる一方です」

「そうか！」

広々とした海原

防波堤で竿でもたれようか

心身の疲れはほぐれていく

「いいあんばいや」

「めちやくちや釣れる！」

白いらつきようでアタック

するにかぎる

たこマンが 夜なべ明けに 釣りにいき

イイダコが 疲れた竿に ひっかかり



スイカの味わい

グループサウンズと呼ばれ
四、五人で合唱団みたいな
童謡があったり

どこそこの名門大学出身って
まるで駅伝の「看板顔」

タスキをつないで今も…

やがて「ブルーシャトー」など

和製ポップスが流れだし

そのうち

いったいグループはどれほど

解散していったか

さあ？ 男性の土俵ですので

そこに四十八人もの若手集団

女性だけのAKBグループ誕生

あつという間に

全国に展開

メンバー総勢千人はこえて

その中から毎年

「この娘が！」

選抜選挙で選ばれ

「初めてランクインして嬉しい！」 79位

「よかったです！」 45位

「まさか 名前を呼ばれるなんて！」 28位

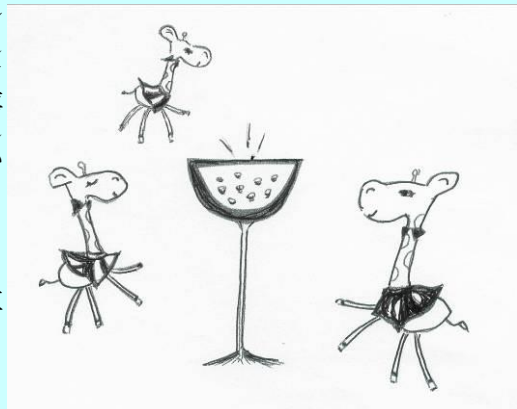
「今こうしてトロフィもって！」 女王に

高いカゴめがけ

あの玉入れ競技の数あわせ

スイカを 好歌と書いて いいですか

いつの日か 大玉スイカ 食べたいな！



色はうつろいて

いとせめて 恋しきときは夜着を
裏返して寝れば会えるかも

裏地はトマトの真っ赤っか

トマトじゃない「赤パン」のこと

赤いパンツを男性におくると

プロポーズ成立のサイン

「えっ そうなの？」

「イタリアでのことだけど」

地中海ぞいらしいナー

わがみよにふる眺めしままに

花の色は うつりにけるも

ロシアでは

人形になったマトリョウシカ

送りだした兵士の

勝ちイクサを祈って赤いサラファン

あるサッカーの試合で

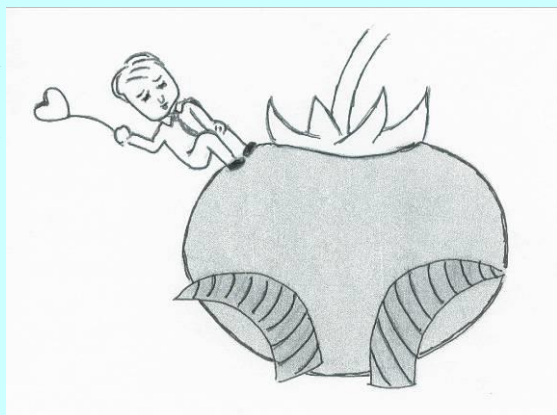
異例のハプニングがあつて

「ウエアの色が似ていて

どっちが味方が迷う」

ユニホームが動くたび

「目をごちゃごちゃ」



急ぎよハーフタイムを利用して

使う予定のなかったのに着替えて

後半に臨んだ試合は

ハテナ？ 蹴るほどに

赤旗にはならずじまい

ちよつと 勇気いるけど 赤パンツ

正座して 衿を正して 祈願する

蝶の少卵化

このステージは
誕生の巻ですから

卵を茎や葉っぱに産み付けると
もう クタクタの雌の蝶

上昇気流にのって去った雄は

「ああ あとは餌になるだけ」
そんな

弱ったのを見たくない
メスだって そっとしてほしい

「ツチュ タチュ」
テレビのアンテナから

じっと見下ろすツガイの 鵲つぐみ

こちらも子育て
蝶のラブ生態を

ずっと見届けてきた
その有様が展開してメスがいよいよ
羽根ふって体よじって

「ボタンきゅーん」
一目散に下りて蝶をつかむ

クチバシの先にくわえたまま屋根へ
目に青葉じゃない

獲物しか映らないらしい

はつらつとした気分で

どこかへ行つたオスの蝶

かすみの彼方へ

メスは君恋しなんて歌いませぬ

歯をくいしばって少卵化の

歯止めのために忍んで

鳴きやみて おぼこな蝶に なってるよ

母に似る 模様が風に まぎれてる

